

成人式



1月10日 新成人を代表して二十歳の誓いを述べる共済推進課の杉野有沙職員

CONTENTS

- 平成27年産農作物を振り返る
(水稻・小麦・大豆) … 1～4
(たまねぎ・アスパラ・ハスカップ) … 5～7
- 第2回アスパラセミナー開催 … 8
- 理事会だより・川柳 … 9
- こよみ・振興局へしめ飾り寄贈 … 10
- 共済ホットライン … 11～12

●スプラピラの一言●

《アスパラ生産者募集!》

わたしたちと一緒にアスパラを作ってみませんか?各種助成金等もありますので、ぜひご相談ください。

●お問い合わせはコチラ●

JAびばい農産園芸課 TEL 63-0527
美咲市グリーンアスパラ生産組合事務局
(担当:山本)まで

どんな作業をするのかな?
植えてもすぐ収穫できないんじゃない?
などの疑問にもすぐお答えします!



平成 27 年産農作物を振り返る

J A びばい管内の基幹作物である水稲をはじめ、小麦、大豆その他園芸作物の生育状況等を振り返ります。今年度の作付の参考にお役立てください。



水稲

『気象経過と生育状況』

(1) 融雪と耕起作業

今年度は降雪量が少なく、3月も高温に経過したため融雪が進み、融雪期は昨年より9日早い3月30日になりました。(空知農業改良普及センター調べ。以下…普及センター調べ)ほ場の乾きが良く、耕起作業は、耕起始4月26日(早9日)、耕起最盛期は5月1日(早8日)と昨年より作業は順調に進みました。

(2) は種作業

は種作業は、は種始は4月16日(早2日)、は種期4月21日(早2日)、は種終4月26日(早1日)と昨年より1〜2日早く作業が行われました。

(3) 育苗

は種後、4月22日から日照が多く、出芽期は4月27日(早2日)と早くなり出芽は良好でした。育苗期間は概ね高温多照で経過したため、一部が水不足による苗の障害が見られましたが、苗の生育は順調でした。

苗は草丈、第一鞘高が短く・葉数・茎数・乾物重・充実度が平年を上回

り、苗質は良好でした。(表1) また、育苗中の目立った病害の発生はありませんでした。

表1 「ななつぼし」の中苗・成苗平均と平年比較 (普及センター定点)

		27年	平年	差	比率%
草丈	(cm)	13.0	14.6	-1.6	89
葉数	(枚)	3.8	3.7	0.1	102
茎数	(本)	1.6	1.3	0.3	125
第1鞘高	(cm)	2.4	2.7	-0.3	88
乾物重	(g/100本)	3.40	3.16	0.24	108
充実度	(乾物重/草丈)	0.262	0.216	0.05	121

(4) 移植作業

移植は、移植始5月18日(早3日)、移植期5月22日(早3日)、移植終5月27日(早4日)と昨年より3〜4日作業が進みました。移植期間中、平年より気温が高く、日照時間も多かったですが、風の強い日が多く、植え傷みの見られるほ場もありました。

(5) 初期生育

活着期は5月28日(早4日)、活着も良好でした。しかし、6月4日から低温日照不足の日が多くなり、分けつ始は6月9日(早2日)、6月15日の茎数は平年比90%とやや少なく、生育の進みは鈍化しました。

表2 「ななつぼし」中・成苗平均の生育推移 (普及センター定点)

調査月日	項目年	草丈	葉数	茎数	遅速日数
		(cm)	(枚)	(本/m ²)	
6月1日	27年	17.3	4.9	91	+4
	平年	15.5	4.3	105	
6月15日	27年	27.9	6.7	169	+2
	平年	27.0	6.4	187	
7月1日	27年	40.0	8.8	490	-1
	平年	43.1	8.8	517	
7月15日	27年	60.3	10.4	681	-3
	平年	66.2	10.3	683	

(6) 幼穂形成期

6月6半旬から7月2半旬まで低温傾向となり、幼穂形成期は7月5日(遅3日)と遅れました。茎数は幼穂形成期以降の遅発分けつの発生が多かったため7月15日には平年並みの茎数となりました。

(7) 前歴期間・冷害危険期

不稔初が多発が懸念される前歴期間(幼穂形成期から10日間)最低気温15℃以下は、数日あったものの、冷害

危険期(前歴期間から7日間)の最低気温13℃以下はほとんどなく、葯長は並で花粉は充実したものとなりました。

(8) 出穂・開花

出穂は2〜3日遅れましたが(表3)、出穂・開花時期は最高気温24℃以上あり稔実歩合は高くなりました。遅発分けつが多く穂揃いは平年よりやや不良でした。

表3 「ななつぼし」「きらら397」中・成苗出穂状況 (普及センター定点)

	ななつぼし		きらら397	
	27年	平年	27年	平年
出穂始 (5%出穂)	7月28日	7月26日	7月28日	7月27日
出穂期 (40~50%出穂)	7月31日	7月28日	7月31日	7月29日
出穂揃 (90%出穂)	8月4日	8月1日	8月4日	8月1日

(9) 登熟期間

8月上中旬の気温が高かったため、初中期の登熟は順調に進みました。9月2日〜3日にかけて強風と降雨により一部の水田で倒伏が見られました。



平成 27 年産農作物を振り返る

(10) 収穫作業と収量構成要素
 収穫作業は、収穫始 9 月 17 日(遅 3 日)と遅れて始まり、9 月下旬から降雨の日が多く、収穫終は 10 月 5 日(遅 5 日)となりました。
 収量構成要素は稔実歩合が高く、稔実総粒数は平年並を確保しました。(表 4)

		穂数 (本/㎡)	1 穂粒数 (粒/㎡)	総粒数 (粒/㎡)	稔実歩合 (%)	稔実総粒数 (粒/㎡)
ななつぼし	27年	568	58.8	33,398	95.6	31,928
	平年	597	58.0	34,626	91.7	31,752
	比率%	95	101	97	104	101
きらら397	27年	646	52.8	34,109	95.0	32,404
	平年	619	53.4	33,055	90.7	29,981
	比率%	104	99	103	105	108
ゆめぴりか	27年	682	48.1	32,804	95.8	31,426
	平年	677	49.4	33,444	92.4	30,902
	比率%	101	97	98	104	102

農林水産省北海道農政事務所による南空知の収量(12月4日現在)は、10a 当たり 556 kg、作況指数は 106 と公表されました。
 品質は、製品歩留まりが高く、未熟粒は少ない傾向になりました。
 (11) いもち病

7 月 22 日〜 26 日にかけて、葉いもち病感染好適な高夜温、曇天湿潤が続き、8 月上旬に葉いもち病の初発を確認しました。しかし、新たな発生は確認されませんでした。

(12) カメムシ

8 月 5 日に病害虫防除所よりカメムシ多発の注意報が発表され、発生は多い状況でした。しかしその後、8 月中旬を中心に、断続的な降雨が多く、一部を除きカメムシの発生は概ね平年並となったことや、発生予測の確な防除等により、被害粒の発生は少なくなりました。

『平成 28 年産に向けて』

平成 27 年の水稲は、概ね良好な収量品質を確保した年となりましたが、地域や個人の間で、その内容にバラツキも見られました。各種生産組織の会合や研修会に出席して、情報交換に努め、次年度の改善策を考えてみましょう。

(1) 採種ほ産種子の使用

種子伝染性病害(いもち病・ばか苗病)対策のため、採種ほ産種子を使用しましょう。

(2) 初期生育促進と穂揃い性の向上対策

ほ場の乾田化、移植後の適正水管理、防風対策、側条施肥等により、初

期生育を促進し、穂揃い性向上を図りましょう。

(3) 適正施肥

土壌肥沃度、乾土効果を考慮し、施肥量は適正にしましょう。

(4) 気象状況に対応した水管理

① 前歴期間・冷害危険期の深水管理は基本技術です。畔の補修、かさ上げなど実施しておきましょう。

② 早期落水は、登熟に影響を与えます。登熟期間中は、ほ場水分を確保しましょう。

(5) いもち病対策

いもち病発生ゼロに向け、今後とも万全な対策で取り組みましょう。

(6) 雑草対策

ヒエやミアオイなど残草の多かつたほ場が見受けられました。効果的な薬剤を適期に散布し、雑草を抑えましょう。

秋まき小麦

『は種』

は種作業は平年より早く、9 月 14 日には種期となりました。早まった要因としては、まとまった降雨の前には種作業が進んだことが考えられます。また「越冬前の太い茎が穂になりやすい」という考え方の浸透も一

因と思われる。は種作業が早まっ

たことにより、越冬前の葉数は平年より多く、茎数も平年を大きく上回りました。

	平成 26 年	平年	遅速(差)
は種始	9 月 11 日	9 月 15 日	+4 日
は種期	9 月 14 日	9 月 21 日	+7 日
は種終	9 月 24 日	9 月 28 日	+4 日
出芽期	9 月 22 日	9 月 30 日	+8 日
根雪始	11 月 28 日	11 月 27 日	-1 日
越冬前葉数(枚)	6.9 枚	5.9 枚	+1 日
越冬前茎数(本/㎡)	1,512 本	1,105 本	+407 本
融雪期(H27)	3 月 28 日	4 月 5 日	+8 日

『積雪』

前年の根雪始は、平年並の 11 月 28 日、今年の融雪期は平年より 9 日早い 3 月 28 日でした。積雪量も平年より少なく、積雪期間は 125 日と短くなりました。そのため、旺盛な生育ながら害は極めて軽微でした。



写真 1 黒色小粒菌核



写真 2 褐色小粒菌核



平成 27 年産農作物を振り返る

『生育状況』

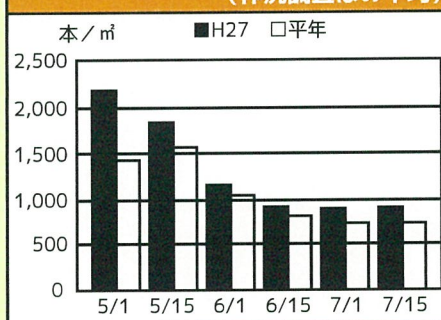
起生期を4月1日に迎え、追肥頃にはまとまった降雨を観測しました。これにより、起生期に行った追肥効果は高く、養分吸収は平年より順調に行えました。5月上旬の気温低下により、葉の黄化症状も見られましたが、その後の気象条件に恵まれ、生育は順調に経過しました。幼穂形成期は平年より5日早い4月30日、出穂期も平年より5日早い6月2日に迎えました。

表2 秋まき小麦の生育期節 (きたほなみ)

	平成 27 年	平 年	遅速(差)
起生期	4月1日	4月12日	+11日
幼穂形成期	4月30日	5月4日	+4日
止葉期	5月23日	5月28日	+5日
出穂期	6月2日	6月6日	+4日
成熟期	7月16日	7月16日	±0日

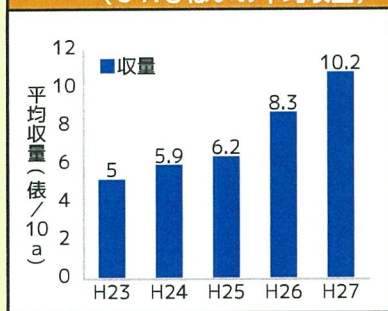
前年は降水量が平年より少なく経過したため、施肥効率の低下を伴いましたが、本年度は適度な降雨に恵まれて施肥が茎数増加につながりました(図1)。

図1 茎(穂)数の推移 (作況調査ほの平均)



出穂後、6月下旬の日照が少なく、7月上旬の気温が平年よりも低かったため、成熟期は平年並みの7月16日に迎えました。登熟日数は44日間と平年より4日間長くなりました。成熟期の穂長は平年並みの9.1cmでしたが、穂数が多く粒張も良いことから、収量は「きたほなみ」を付して以降最高だった前年を上回り(図2)、タンパク含有量も基準値内に収まりました。

図2 年次別収量の推移 (J A びいの平均収量)



収量に結び付く越冬前頑健茎確保を目的に、は種時期が早まり、平成28年産小麦は平年より4日早くは種作業が終了しました。越冬前葉数は6.5葉程度で、越冬前葉数は十分確保されています。しかし、今年は昨年以上に根雪が遅いため、春以降の管理に注意が必要です。越冬後の追肥は必ず行うようにしてください。

起生期の追肥は遅れないようにし、降水予報にも気を配りましょう。施肥量は、茎数や雑草の発生量に応じて加減してください。基肥に緩効性肥料を用いた場合でも、肥効の発現が遅れる場合は追肥を検討してください。

全道的に「なまぐさ黒穂病」が広がっています。特に連作畑では注意が必要です。

必要です。



写真3 なまぐさ黒穂病 (黄色い枠がなまぐさ黒穂病罹病穂)

春まき小麦

『生育経過』

降雪始は平年より2日早い10月28日でしたが、根雪始は12月5日と平年より5日遅くなったため、は種作業は順調でほぼ平年並みに終了しました。

融雪期は3月30日と平年より8日早く、越冬後の生育量は平年を上回りました。融雪後は適度な降雨があり、幼穂形成期・止葉期・出穂期は平年より1週間程度早まりました。

6月下旬の日照が不足し、7月上旬の気温が低かったため、成熟期は平年並みの7月26日に迎え、登熟日数は52日間と平年より5日間長く確保されました。

防除が徹底され「赤さび病」の被害は軽微でした。



写真4 赤さび病

獅子座



優柔不断になりやすい月。決められないときは頼れる人に助言をもらい、参考にして。やる気回復には音楽鑑賞を

蟹座



やたらと他人を詮索して、運気低下を招く結果に。人は人、自分は自分と割り切りましょう。鏡を磨くと幸運が

2016. 2

平成 27 年産農作物を振り返る

収穫作業は平年並みに行われまし
た。穂数が多いため収量は平年を上
回り、品質も平年並みに良好でした。

	平成 27 年	平 年	遅速(差)
は種終	11月15日	11月14日	-1日
幼穂形成期	5月7日	5月14日	+7日
止葉期	5月25日	6月1日	+7日
出穂期	6月4日	6月10日	+6日
成熟期	7月26日	7月27日	+1日
収穫始	7月31日	7月31日	±0日
収穫期	8月3日	8月3日	±0日
収穫終	8月5日	8月5日	±0日

『平成28年産に向けて』

融雪が遅れると、秋まき小麦同様
に越冬率が低下します。

《散布時期》散布適期は最高気温が0
℃以上の続く日(3月1日～10日頃)
《散布資材》アッシュ類、融雪炭カル
等40～60kg/10a

※散布後20cm以上の新雪が積もった
場合は再度散布します。

※ばらまき栽培は凍上害回避のため
極端に早い融雪剤散布を避けます。

融雪後ほ場に入れるようになった
ら直ちに窒素肥料を施用します。
排水性の悪いほ場は、額縁明渠の設

置を検討しましょう。

大豆 ユキホマレ

『生育経過』

作業が競合する水稻の移植が早ま
ったため、は種期は平年より5日早
く迎えました。

出芽期も平年より4日早く出芽も
良好でしたが、6月下旬の日照不足
と7月上旬の低温により生育は一時
停滞。7月下旬～8月中旬は高温で
推移し、開花期は平年に比べ1日遅
くなりましたが、好天で着莢数はや
や上回りました。

表4 大豆の作業・生育期節と遅速（ユキホマレ）

	平成 27 年	平 年	遅速(差)
は種期	5月25日	5月30日	+5日
出芽期	6月9日	6月13日	+4日
開花期	7月21日	7月20日	-1日
成熟期	9月26日	9月24日	-2日
収穫始	10月7日	10月4日	-3日
収穫期	10月17日	10月14日	-3日
収穫終	10月27日	10月24日	-3日

9月上中旬の多雨と日照不足の影
響で、葉の枯れ上がりが遅れ、成熟期
は平年より2日遅い9月26日に迎え

ました。10月には断続的な降雨があ
り、収穫作業は停滞しました。

全般に小粒傾向でしたが、1莢内
粒数が多く収量はやや多収となりま
した。



写真5
マメシンクイガ
脱出孔と土まゆ

大豆 スズマル

『生育経過』

5月3～4半旬に40mmの降雨があ
り、水稻代かき・移植作業との競合
もあって、は種は平年に比べ3～4
日遅れました。

は種作業の遅れに伴い生育は平年

表5 大豆の作業・生育期節と遅速（スズマル）

	平成 27 年	平 年	遅速(差)
は種期	5月27日	5月23日	-4日
出芽期	6月7日	6月4日	-3日
開花期	7月27日	7月22日	-5日
成熟期	10月3日	9月28日	-5日
収穫始	10月12日	10月10日	-2日
収穫期	10月19日	10月17日	-2日
収穫終	10月25日	10月23日	-2日

値を下回り、6月下旬の日照不足か
ら生育は停滞し、開花期は平年よ
り5日遅い7月27日に迎えました。
開花の遅れから莢の伸長は平年よ
り遅れましたが、着莢数、収量とも
ほぼ平年並みとなりました。9月全
般の多雨により葉の枯れ上がりが遅
れ、成熟期は平年より5日遅い10月
3日となりました。

『平成28年産に向けて』

土壌分析を行い、分析結果に基づ
いた石灰資材を投入してpHを改善
しましょう。10cmの深さでpHを
「1.0」上昇させるタンカルの目安
は、200kg/10aです。ほ場の排水
性が不十分な場合は、心土破碎や額
縁明渠・傾斜均平を行います。気象
予報に注意して適期には種すると
もに、機械の水平調節や土壌水分に
応じては種深度を調節するなど、出
芽が揃うように工夫しましょう。

マメシンクイガは莢長が2cm程度
になると産卵します。成虫が発生し、
莢長が2cmに達した時期が防除適期
です。

更なる増収の手段として開花期追
肥があります。7月上旬（本葉3葉展
開期頃）に根粒菌の付着状況を確認
し、窒素成分で5～10kg/10aの追
肥を検討しましょう。



平成 27 年産農作物を振り返る

たまねぎ 北もみじ2000

『本年の生育経過と農作業状況』

春先から日照時間が非常に多くほ場の乾燥が進み、移植作業は4月22日～29日の期間に順調に行われました。移植期間中は干ばつ傾向が懸念されましたが、5月4日～5日に9.5mm、5月12日～14日に31.0mm、5月19日～22日に10.5mmの降雨があり、活着も良好でした。

表1 たまねぎの生育期節と平年比較 (普及センター定点)

生育期節	平成 27 年	平 年	遅速(差)
出芽期	3月10日	3月11日	+1日
球肥大期	7月9日	7月11日	+2日
倒伏期	7月26日	7月29日	+3日
枯葉期	8月19日	8月19日	±0日

6月は3日に65.5mmの降雨があり、一部滞水したほ場では水やけや葉先枯れが発生しましたが、その後の適度な降雨により生育は順調に推移し、草丈、葉数、葉鞘径の値が平年より大きくなり生育量が確保されました。

北もみじ2000の倒伏期は7月26日と平年より3日程度早くなりました。葉の生育が旺盛だったため倒伏後の枯葉には時間を要し、枯葉期は平年並みの8月19日となりました。

表3 たまねぎの生育と平年比較 (普及センター定点)

生育	草丈 (cm)	葉数 (枚)	葉鞘径 (mm)	球径 (cm)
5月15日	15.1	2.1	3.6	
6月1日	21.9	4.3	6.6	
6月15日	47.1	6.6	10.8	
7月1日	79.8	9.1	19.2	
7月15日	91.5	9.7	21.3	4.8
8月1日	85.4	8.8	18.9	7.5
8月15日				8.2
9月1日				8.3

表2 たまねぎの農作業期と平年比較 (普及センター定点)

作業期	平成 27 年	平 年	遅速(差)
は種期	2月23日	2月25日	+2日
移植期	4月24日	5月2日	+8日
根切り期	8月21日	8月21日	±0日
収穫期	8月26日	9月7日	+12日

程度早く始まり、急激に肥大しました。

収穫盛期は平年より12日早い8月26日で、収量・品質ともに良好となりました。

『病害虫』

予察調査ほ場においてネギハモグリバエ成虫が捕殺され始めたのは、5月6半旬～6月1半旬からです。その後しばらくは発生が少なかったですが、7月3半旬頃よりたまねぎ葉への食害痕が目立つようになり、7月4半旬～5半旬の期間に捕殺頭数が増加しました。その後一旦捕殺頭数が減少した後、再び8月3半旬～4半旬の期間に捕殺頭数が増加しました。

特に岩見沢市の2ほ場は捕殺頭数が多く、8月3半旬には最大で粘着板1枚当たり76頭捕殺されました。美唄市3ほ場は期間を通して捕殺頭数が少なく、最大でも3頭以下で推移しました。本年はネギハモグリバエの発生が少なかったことから、りん茎内部への幼虫の食入や腐敗も少ない年でした。「アザミウマ類」の発生や被害が目立つ年でしたが、病害も比較的少ない年ではあります。6月30日～7月2日に39.0mm、7月18日～22日に97.0mmの降雨があり、一部ほ場では「べと病」の発生もみられました。

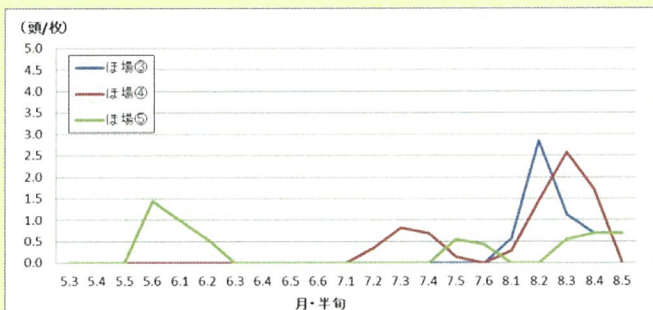


図2 たまねぎネギハモグリバエ捕殺頭数の推移 (美唄市) (普及センター予察ほ場)

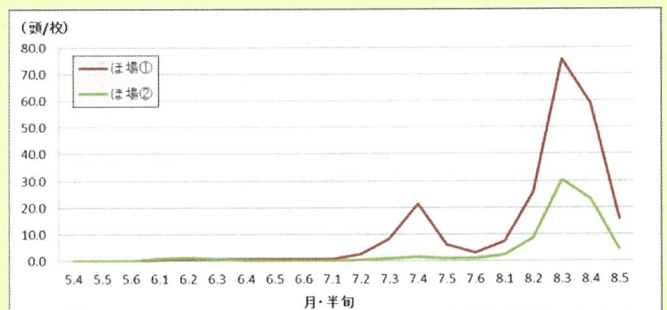


図1 たまねぎネギハモグリバエ捕殺頭数の推移 (岩見沢市) (普及センター予察ほ場)

射手座



知的的好奇心を刺激され、いろいろと知りたくなりそう。でも、手を広げ過ぎず、何か一つに絞るのが成功の鍵

蠍座



感情的になり、つまらないことで腹を立てがち。意識的に笑みを心掛けて。問題解決には日記を読み返すと有益

2016. 2

5

平成 27 年産農作物を振り返る

『平成 28 年産に向けて』



写真1 たまねぎべと病初期病斑

ほ場の融雪を促進し、適期移植に入れるようにしましょう。ほ場の透水性が不十分な場合は心土破砕を実施し、移植後の根張りを確保しましょう。

生育期間中には病害虫の発生予防に努め、適期防除を実施しましょう。収穫後には緑肥や堆肥による有機物の補給を行い、地力を維持しましょう。

アスパラガス

『作型ごとの生育経過』

(1) ハウス作型

平年通り2月中旬頃からハウスビニールの被覆が始まりました。3、4月は気温が高く、日照時間が長かったため、早く萌芽が始まり、収穫開始も早まりました。春芽の収量は、前年秋の株養成が十分行われたことにより、若茎の太さは太く、良好でした。立茎は、目標とする太さの親茎と本

数の確保など順調に行われましたが立茎中の日照不足と6月下旬～7月上旬、8月下旬の低温により、萌芽が鈍いことに加え、若茎の曲がりが発生し、夏芽の収量は前年を下回るほ場が多くなりましたが、全期間の収量は、前年並みくやや多くなりました。

(2) 露地作型

春先の好天により、ハウス作型と同様、春芽の収穫は早まりました。春芽収穫期間中は、偏った降雨により、収量はやや少ないく前年並みでした。立茎作業は順調に行われ、立茎中は日照時間が多く、7月中旬から気温が上昇し、夏芽の萌芽は良好でしたが、8月下旬以降の低温により、収穫期間が短くなりました。全期間の収量は、やや少ないく前年並みでしたが、ほ場によっては春芽、夏芽ともに前年を上回り、ほ場間差が大きくなりました。

(3) 秋季生育調査結果

生育調査は10月上旬、根中糖度調査は11月中旬に行いました。ハウス、露地作型ともに、翌春に必要な生育量を確保しており、8月下旬以降は、気温が平年並みに推移し、根中糖度も昨年並みに高く、株養成が十分行われたと思われれます。

表 1 H27 生育と過去 2 年間との比較 (JA びばい管内調査ほ場の平均)

作 型	草丈 (cm)	有効茎数		GI	斑点病発病指数	根中糖度		
		茎数(本/m)	茎径(cm)					
ハウス	H27	198.4	13	1.23	3,203	2.9	21.7	
	H26	182.4	15	1.14	3,085	2.4	22.3	
	H25	169.4	15	1.06	2,668	3.6	16.4	
露地	立茎	H27	158.7	15	1.18	2,842	2.4	20.3
		H26	168.5	14	0.98	2,265	2.0	23.2
		H25	162.8	14	1.02	2,262	3.4	17.3
	慣行	H27	156.3	22	0.96	3,301	2.4	22.9
		H26	144.9	23	0.99	3,257	2.0	25.4
		H25	138.3	22	0.93	2,862	3.1	14.9

《草丈》トッピング実施ほ場も含む
《有効茎》茎径0.5cm以上で、枯死茎は含まない
《GI》平均草丈×1mあたり茎数×平均茎径
《斑点病発病指数》0=発病なし
2=病斑が認められ、一部落葉、黄化
4=株の1/2以上が黄化、落葉

『病害虫の発生状況』

斑点病は、7月上旬から病斑が見られ、9月以降から発生が目立ちました。平成26年よりも発生は多いですが、平年より少なく、早期に黄化、落葉したほ場は少なくなりました。

茎枯病は、露地作型のみが発生しており、8月下旬から病斑が見られました。

疫病は、最近になってから発生を確認した病害で、露地作型で7月から発生が見られました。(写真1) カメムシ類、アザミウマ類は6月下旬から発生が見られ、8月以降は食害による夏芽の製品率低下や茎葉の奇形、芯止まりが見られました。ヨトウムシ類は、6月下旬から発生が見られ、8月以降は若茎や立茎した茎葉の食害が見られました。



写真1 露地作型で見られた疫病

『平成 28 年産に向けて』

昨年秋の生育状況から、株養成が十分行われたと推察されるため、春は、通常通りの収穫日数が見込めます。しかし、病害虫により早期落葉したほ場は、収穫期間を短縮します。

親茎の太さは、L規格(10～14mm)中心で立てましょう。立茎栽培では、親茎が太いほど、同じ鱗芽群から萌



平成 27 年産農作物を振り返る

芽した若茎は重く、その関係は春芽よりも夏芽が高くなります。2L以上の親茎を立てた場合、萌芽の回転が遅く外品の発生が多くなることから、収量と品質を高めるため、親茎の太さは1規格を目標としましょう。

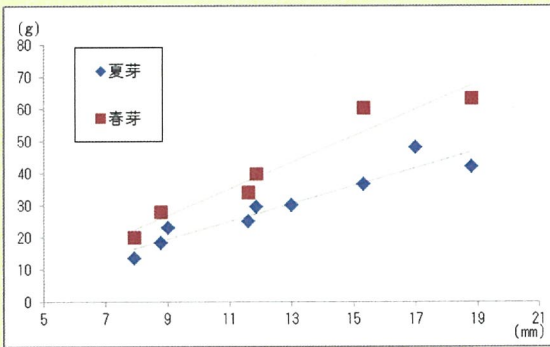


図1 親茎の太さと若茎の重さ (H25～H27 J Aびばい管内調査)

《横軸》親茎20本を3規格 (SM・L・2L以上) に分けた中での平均直径
《縦軸》同じ麟芽群から萌芽した若茎の平均1本重
堆肥の投入による地力増進と土壌PHの矯正を図りましょう。
発生予防に努め、病害虫防除を徹底しましょう。

斑点病は、立茎開始から3週間頃 (擬葉展開開始) までには防除を開始し、初期感染を防止しましょう。

7月下旬以降は、各種病害虫の発生が増加する時期であり、特に、露地

慣行栽培では、7月下旬から8月上旬頃には二次萌芽が始まるため、防除を必ず行いましょう。

ハスカップ

『平成27年産について』

昨年同日となる6月17日より収穫を開始しました。

開花期の風害による結実不良や落花が見られたほか、収穫最盛期であった7月1日の豪雨で、裂果による品質不良果や落花の被害も多く見られました。

しかし、開花期から実の肥大期までの期間は比較的冷涼な気候で、定期的な降雨もありました。結果として平成27年産の反当収穫量は直近5ヶ年で最高の241kg/10aとなり、JA集荷量は前年を上回る結果 (28,954kg) となりました。

また土地改良事業が進むにつれて、年々作付面積が減少傾向にありますが、小規模で新たに作付される新規組合員も出てきています。

しかし、ハスカップの苗株の大小で収穫まで要する年数も変わる事から、平成28年度からは、JAびばい農場を活用して大株育成に取り組み、安価で良質な苗を組合員へ提供していきたいと考えます。

『平成28年の取り組み』

- ①物理性の改善『有機物の施用と明暗きよの施行』
- ②排水良好で膨軟な土壌に改良する
- ③明きよの設置による融雪水や近年の集中豪雨を素早く排水
- ④化学性の改善『良好な生育環境』
- ⑤pHは6.5以下に矯正 (5以下には絶対にしない)

※春に土壌診断をしましょう
③施肥 『春肥をあげましょう』
④成株は成分量でN・P・K各8kg (若株は各6kg)

- ⑤施肥は融雪直後に行い、土と混和する
- ⑥収穫後のお礼肥も忘れずに施用
- ⑦剪定 『発芽前に仕上げ剪定をしましょう』
- ⑧4月中に枯れ枝や折れ枝を剪定
- ⑨混みすぎを改善して実の肥大を良くする
- ⑩防除 『カイガラムシ・アブラムシ等々』

- ⑪発芽前に越冬害虫 (カイガラムシ) 開花後にアブラムシの防除を行う
- ⑫株がいじけていたら、ナガチャコガネを疑うこと
- ⑬風害対策 『結実と訪花昆虫の活動促進』
- ⑭防風網の設置 (部会員は助成あり)

園芸全般

『平成28年度に向けて』

近年は局所的な大雨や異常な低温や高温など、気象変動が激しくなっています。

心土破碎によるほ場の透排水性改善や、明きよ・暗きよの再点検、有機物を施用した土づくりなど、基本技術の積み重ねが大切です。品目によっては高畦栽培による湿害回避も検討しましょう。

気温の変動には、施設栽培では高温時の遮光や循環扇の活用で適温管理に努めましょう。

生育期間中には病害虫の発生予防に努め、適期防除を実施しましょう。

今回掲載していない作物や内容については、各担当課の職員にお尋ねください。

《水稻・小麦・大豆》
米 麦 課

TEL 631-0526

《たまねぎ・アスパラ・ハスカップ》
農産園芸課

TEL 631-0527

【文責】

アスパラ・ハスカップ/農産園芸課
その他/空知農業改良普及センター



革 新的技術の実装

第2回セミナー開催

高収益施設アスパラガス 新技術研究会



共催者として挨拶に立つ岸定専務

J Aびばいが共催する高収益施設アスパラガス新技術研究会は12月18日、江別市にある酪農学園大学において「寒地における革新的技術を実装した高収益施設アスパラガス経営の実証」と題した第2回目となるセミナーを開催し、道内外の農業関係者ら約200名が出席した。

寒地高収益アスパラガス経営研究グループが主催する同研究会は農水省の事業を活用し、研究期間を平成26年度から27年度、研究実施場所を茶志内町の内山裕史氏が経営する内山農園に設定。フィールドサーバーシステム及び地域資源である籾殻を燃料とした低価格温水ボイラーを用いた土中蓄熱暖房システムの開発と組み合わせるとともに、それら革新的技術に対応した科学的な数値に基づく、栽培管理技術の融合した高収益アスパラガス経営の実証と技術の伝承を目的に研究を重ねてきた。

セミナー開催にあたり挨拶に立った岸定専務は「今回の取り組みがマニユアル化し、立茎栽培の基準となることに大きな期待を寄せている」とした。

基調講演では農研機構九州沖縄農業研究センターの渡辺慎一主任研究員が「西南暖地における高収益アス

パラガス栽培技術」と題して、春芽の収量確保や夏場の高温対策、ハウス半促成長期どり栽培における新しい取り組み説明などを講演した。

続いて行われた研究成果発表では、酪農学園大学の園田高広教授と株式会社ソラールの荏原裕一事業部長、株式会社CSソリューションの庄内道博システム総括マネージャがそれぞれ研究成果を説明。また、研究実施場所となった内山農園の内山裕史氏からは同技術を用いた施設アスパラガス栽培の実証報告がされ、栽培概況や定植からの生育などについて説明があった。



出席者へ栽培の概況を説明する内山さん

さらに当J Aの北藤吉浩農産園芸課長からは、同施設アスパラガスの経営評価として、籾殻を使用した土壌蓄熱暖房システムを用いた場合の収量や経営収支、経費の内訳などが説明された。

発表終了後はパネルディスカッションが開催され、寒地における革新的技術を実装した高収益施設アスパラガス経営の実証「試験の普及に向けて」をテーマに掲げ、事前に回収したアンケートをもとに活発な議論が展開された。また会場の受付ロビーでは研究成果も展示され、多くの出席者が見学した。



パネルディスカッションの様子

定例理事会

報告

- ①平成27年11月末現在、業務財務報告
- ②管理・信用委員会報告
- ③営農・経済委員会報告
- ④農家経済改善対策委員会報告
- ⑤信用事業リスク管理強化委員会報告
- ⑥JAびばい農場活用推進委員会報告
- ⑦平成27年度決算推定について
- ⑧その他

議案

- ①平成27年度第3・四半期末監査意見報告
- ②資産査定要領等の一部改訂について
- ③平成27年度自己査定に係る不動産評価基準の設定について
- ④平成27年度管理債権の回収見込みについて
- ⑤特定組合員に対する資金の貸付について
- ⑥理事に対する資金の貸付について
- ⑦平成26年産新規需要米共計最終精算について

- ⑧平成26年産大豆の最終精算について
- ⑨平成27年産新規需要新規需要米の概算精算について
- ⑩平成27年産特定米穀の精算について
- ⑪年末手当の支給について
- ⑫平成26年産小麦の最終精算について
- ⑬その他

その他報告事項

- ①平成28年度営農計画書審査日程について
- ②平成27年度経営所得安定対策交付状況報告
- ③平成28年度作付意向調査報告
- ④農業基盤整備促進事業及び農地耕作条件改善事業実施状況報告
- ⑤平成27年産米・大豆集荷実績報告
- ⑥生産施設操業実績報告
- ⑦経済部業況報告
- ⑧その他

報告

- ①営農経済委員会報告

臨時理事会

- ②農家経済改善対策委員会報告
- ③特定組合員のクミカン収支見込報告
- ④その他

議案

- ①理事を含む団体且つ大口貸出先に対する資金の貸付について
- ②平成26年産主食用米共計追加精算について
- ③平成26年産政府備蓄・加工用米の最終精算について
- ④らいす工房調製米穀の精算について
- ⑤平成26年産国内流通円滑化特別対策事業交付金の支払い及び規格外小麦の最終精算について
- ⑥平成27年産小麦の追加概算金について
- ⑦その他

その他報告事項

- ①大豆数量払戻金実行報告
- ②アグリシードリース第2回募集概要報告
- ③平成27年産大豆集荷実績報告
- ④生産施設操業実績報告
- ⑤その他

お題「線」

一直線に歩んだ筈の七曲り

陽紅

つまみ食い妻の視線が気にかかる

六華

譲ること知らぬ二人の平行線

忠幸

うしろから刺さる視線を感じてる

和子

琴線に触れる言葉が出てこない

登史生

居酒屋の勘定線を守り飲む

紀代子

脱線のひとつふたつは持って古い

キヌ

脳ドック感情線を覗かれる

みどり

いま語る戦線超えて七十年

裕子

点線の様に途切れている記憶

勝義

点線をたどれば黄泉が見えてくる

米子

琴線に触れるものなく雪景色

俊朗

《JAびばい融資課よりキャンペーンのお知らせ》

キャンペーン実施中!

JA教育ローン

期間/平成28年4月28日(木)まで

お気軽にご相談、お問い合わせ下さい。
またローン新規ご契約の方に「粗品」進呈いたします。

キャンペーン実施中!

JAマイカーローン

期間/平成28年3月31日(木)まで

キャンペーンの詳細内容は…
JAびばい 信用部融資課 電話 (0126) 63-2163 まで

こよみ・行事

2月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29					

8日 ○信用力_ランク格付け
検討会

11日 ○建国記念日

15日 ○信用事業リスク管理
強化委員会

16日 ○企画経営検討会議
○コンプライアンス委員会
○定例理事会
○監事会

18日 ○臨時企画経営検討会議

19日 ○常務委員会

20日 ○臨時理事会

29日 ○全国監査機構決算監査
(3月4日迄)

手作り福亀しめ飾り

8年連続振興局へ寄贈



金田局長(右)にしめ飾りを手渡す村上組合長(左)

JAびばいは12月17日、村上利雄組合長が岩見沢市にある空知総合振興局を訪れ、金田幸一局長にしめ飾り「福亀」を4本手渡した。

このしめ飾りは美唄市の特産「おぼろづき」の稲わらを使い女性部員が心を込めて手作りした。村上組合長は「来年も続くように願い、生産者と頑張っていく」と金田局長に声をかけた。

マイナンバーの申告をお願いいたします！

平成28年1月より社会保障・税番号制度(マイナンバー制度)が導入されました。

JA共済では、共済金等のお支払いの際に一定の条件を満たす場合、税務署に支払調書を提出することがありますが、当制度の導入により、法律上支払調書にマイナンバーを記載することが義務付けられました。

つきましては、契約者様※1には共済金等のお支払いの際にマイナンバーを申告いただく必要がございますので、以下の要領のとおり申告をお願いいたします。



- ※1 同一の契約について契約者様と受取人様が異なる場合、受取人様についてもマイナンバーを申告いただく必要がございますのでご了承ください。
- ※2 マイナンバーは納税の手続きにおいて必要となる情報です。未成年者、成年被後見人等、ご本人による申告が困難な場合は、代理人による申告をお願いしております。
- ※3 申告後にマイナンバーの変更が生じた場合や改姓改名時には、再申告が必要となりますので、組合窓口までご連絡ください。

▶ 申告の要領

下記の書類を担当職員にご提出・ご提示ください。

● マイナンバー申告書

用紙に必要事項をご記入ください。

なお、代理人が申告する場合は申告の委任欄もご記入ください。

● 本人等確認書類

ご提示いただく書類により組み合わせが異なります。

本紙裏面をご参照のうえ、必要書類をご用意ください。

マイナンバーとは

平成27年10月から、日本国内の全住民に通知される、一人ひとり異なる12桁の番号のことです。

～平成27年10月から、マイナンバーが一人ひとりに届きます～

- ・マイナンバーは国民一人ひとりが持つ12桁の番号で「通知カード」が送られてきます。
- ・平成28年1月から社会保障・税・災害対策の行政手続で利用が始まります。
- ・マイナンバーは生涯を通じて利用し、原則変更されませんので、大切にしてください。

～行政手続が、早く、簡単かつ正確に行えるようになります～

- ・社会保険の手続きや源泉徴収票などにマイナンバーを記載し、行政手続で利用することで、確認作業の無駄が削減され、また添付書類の省略による簡素化が図られます。
- ・正確な情報に基づく確認により、給付金等の不正受給を防止できるなど、公平・公正な社会を実現します。

～事業者は、行政手続などのため、従業員などのマイナンバーを取り扱います～

- ・事業者は、社会保険の手続きや源泉徴収票の作成などにおいて、従業員などからマイナンバーの提出を受け、書類などに記載します。
- ・個人情報を守るため、マイナンバーは、法律で定められた範囲以外での利用が禁止されており、またその管理に当たっては、安全管理が義務付けられます。

本人等確認書類の組み合わせ

1. 個人番号カードをお持ちの方

「個人番号カード」をご提示ください。

※ 個人番号カードと通知カードは異なりますのでご注意ください。

個人番号カード(表面)



個人番号カード(裏面)



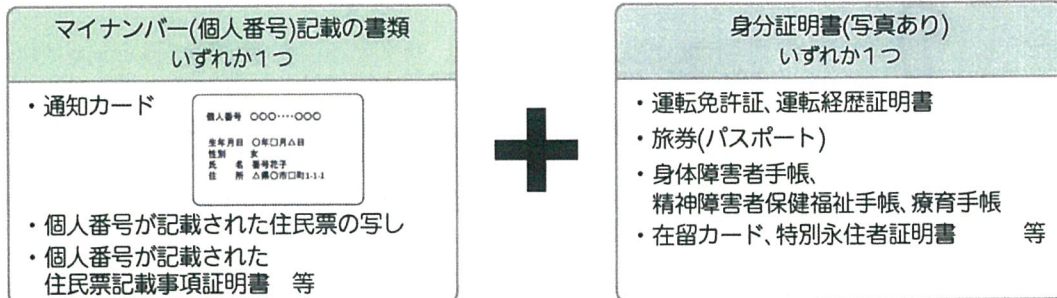
通知カード



ご本人が申告する場合

2. 個人番号カードをお持ちでない方

「マイナンバー(個人番号)記載の書類」と「身分証明書」をご提示ください。



※ 書類間で氏名及び生年月日が一致していることが条件です。

※ 身分証明書(写真あり)の提示が困難な場合は、以下のいずれか2つをご提示ください。

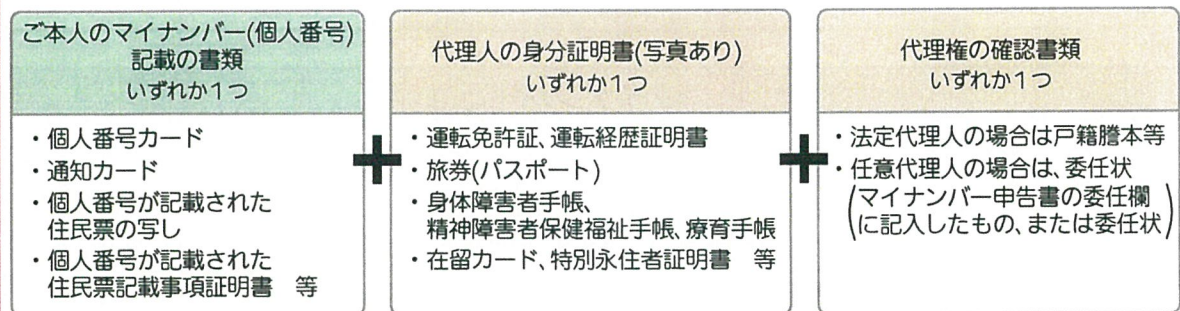
- ・公的医療保険の被保険者証
- ・国民年金手帳
- ・児童扶養手当証書、特別児童扶養手当証書
- ・国税・地方税・社会保険料・公共料金の領収書
- ・印鑑登録証明書
- ・住民票の写し

等

※ 書類については、提示時点で有効なもの、あるいは発行日から6か月以内のものに限ります。

代理の方が申告する場合

「ご本人のマイナンバー(個人番号)記載の書類」と「代理人の身分証明書」と「代理権の確認書類」をご提示ください。



※ 代理権の確認書類と身分証明書上の氏名及び生年月日が一致していることが条件です。

※ 代理人の身分証明書(写真あり)の提示が困難な場合は、以下のいずれか2つをご提示ください。

- ・公的医療保険の被保険者証
- ・国民年金手帳
- ・児童扶養手当証書、特別児童扶養手当証書
- ・国税・地方税・社会保険料・公共料金の領収書
- ・印鑑登録証明書
- ・住民票の写し

等

※ 書類については、提示時点で有効なもの、あるいは発行日から6か月以内のものに限ります。

※ 同時に請求等の手続きをされる場合は、ご請求等の手続用の委任状と書類が必要です。

お問い合わせは…



JAびばい 信用部 共済推進課

(0126) 63-2164

J A の 概 況

<12月末>

○皆さんの貯金	25,798,900千円
○皆さんへの貸出金	4,666,215千円
○皆さんの出資金	719,550千円
○組合員数	(正) 817人
	(准) 4,064人
	(計) 4,881人

美唄市農協生活改善
運動推進協議会



山形
▼大江 マサさん
(九十二歳)

十二月二十二日死去

沼の内
▼小林 志津子さん
(七十一歳)

十二月十九日死去

お悔やみ申しあげます

編 集 後 記

1月5日、JAびばい役職員合同の新年会が3階大会議室で開催され、今年は農業資材課の佐藤俊弥さんと共済推進課の杉野有沙さんが新人となり、大人としての第一歩を歩み出しました。

挨拶に立った佐藤くんは「成人の仲間入りをしたからと羽目を外しすぎず、美唄市農協の職員という自覚をしっかりと持ち、1日でも早く信頼されるJA職員を目指したい」と力強く抱負を語ってくれました。

また杉野さんは1月10日に美唄市民会館で開催された成人式で、新成人190名を代表し、壇上で二十歳の誓いを述べました。



右から村上組合長、杉野さん、佐藤くん

成人おめでとう!
立派な社会人目指して
元気で下さいね!!



受験生にエールを!! JAバンク JAびばいが応援します



受験用の収入証紙を買いに来た中学生
左から原田海成くん、桑折侑甫くん、佐々木啓輔くん

JAびばい貯金課窓口では、入試願書や入学申込用の収入証紙購入者を対象に「受験ガンバレグッズ・入学おめでとうグッズ」の配布を行っています!

収入証紙をお求めの際は、JAびばい貯金課へお越し下さい。みなさまのご来店をお待ちしております。

貯金課職員一同

JAびばい 貯金課 TEL 63-2162

おめでとう!

農協職員資格認定試験 合格者

初級 杉野 有沙 (共済推進課)

第一種衛生管理者試験 合格者

高桑 倫子 (共済推進課)

農業経営診断士 登録者

江畑 真一 (融資課)

鳥井 達也 (農産園芸課)

高橋 直也 (企画相談課)

みんなおめでとう!
これからも頑張って
下さいね!

